

カプセル化が混在する STUN の設定

内容

[概要](#)

[はじめに](#)

[表記法](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、カプセル化が混在するシリアル トンネリング (STUN) を設定する場合の設定例を紹介します。

はじめに

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

前提条件

このドキュメントに関しては個別の前提条件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このマニュアルの情報は、特定のラボ環境に置かれたデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。実稼動中のネットワークで作業をしている場合、実際にコマンドを使用する前に、その潜在的な影響について理解しておく必要があります。

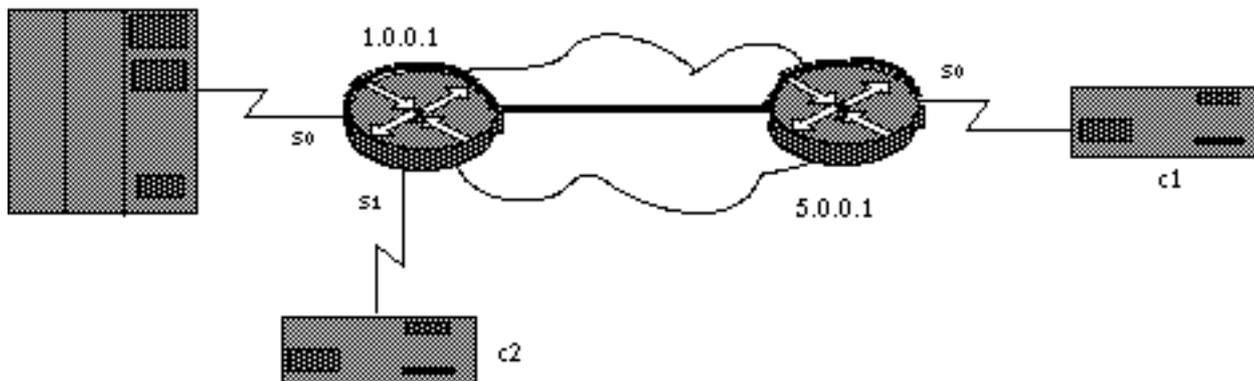
設定

このセクションでは、このドキュメントで説明する機能を設定するために必要な情報を提供しています。

注：この文書で使用されているコマンドの詳細を調べるには、「Command Lookup ツール」を使用してください（登録ユーザーのみ）。

ネットワーク図

このドキュメントでは次の図に示すネットワーク構成を使用しています。



設定

このドキュメントでは、次に示す設定を使用しています。

- ルータ A
- ルータ B

ルータ A

```
stun peer-name 1.0.0.1
stun protocol-group 9 sdlc

interface serial 0
encapsulation stun
stun group 9
stun route address c1 tcp 5.0.0.1
stun route address c2 interface serial 1 direct

interface serial 1
encapsulation stun
stun group 9
stun route address c2 interface serial 0 direct

interface loopback 0
ip address 1.0.0.1 255.255.255.0
```

ルータ B

```
stun peer-name 5.0.0.1
stun protocol-group 9 sdlc

interface serial 0
encapsulation stun
```

```
stun group 9
stun route address c1 tcp 1.0.0.1

interface loopback 0
ip address 5.0.0.1 255.255.255.0
```

注：上の図には示されていませんが、クロッキングはDCEによって提供される必要があります。これを行う最も簡単な方法は、ルータ側でCisco DCEケーブルを使用し、[clockrate](#)設定コマンドを発行することです。簡単にするために、IPルーティング、WAN設定、SDLCアドレス、およびその他のSDLC固有の設定は上記に示されていません。この設定は、混合カプセル化でSTUNを使用する方法を示しています。詳細については、『[シリアルトンネリング \(STUN\) の設定とトラブルシューティング](#)』を参照してください。

[確認](#)

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

[トラブルシューティング](#)

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

[関連情報](#)

- [STUN/BSTUN サポート](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)